

トータルケアNEWS

No.71 2021.5.14

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5
TEL 018-864-2714 FAX 018-864-2742
URL <http://www.akitakenshakyo.or.jp/>
E-mail chiiki@akitakenshakyo.or.jp

CONTENTS

「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」の取組み
・大仙市社会福祉協議会
・八郎潟町社会福祉協議会

「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」の報告 ～モデル指定社協の取組み～

本会では、「赤い羽根共同募金」の助成金を活用し、町内会や自治会、集落等の小地域において、地域の課題解決に向けて住民が主体的に取り組むための仕組みづくりを進める「地域支え合いの仕組みづくりモデル事業」を実施しています。

今年度は、継続モデル地区として能代市社会福祉協議会（東雲地区）と湯沢市社会福祉協議会（稲川地区）を指定しています。（新規モデル地区は現在募集中です。）

今号では、令和元年度から2年間、モデル地域に指定した大仙市・八郎潟町社会福祉協議会の取組みの概要を紹介します。

◆大仙市社会福祉協議会 ～大曲地域の取組み～

□ 指定地区の概要

- ・世帯数：15,207戸（令和3年4月現在）
- ・高齢化率：33,49%（令和3年3月現在）
- ・市町村合併前の旧大曲市に位置し、人口は35,360人（R3.4月現在）で、市全体の約半数を占めている。

□ 具体的な取組み

大仙市社会福祉協議会（以下「大仙市社協」）では、住民同士の助け合い・支え合いを基盤とする「結いっこサービス」を実施している。一番利用者の多い大曲地域では、普段から見守りや声かけ活動により安否確認を行うとともに、買い物

ツアーを実施して外出支援活動に取り組んだ。日常生活を送る上で何らかの支援が必要な世帯に対する見守り活動を行うことで、それまで抵抗感があった介護サービスの利用につながるなど、必要な福祉サービスや他制度等につなぐきっかけにもなっている。

令和3年度から、「結いっこサービス」の事業内容を拡大し、大仙市社協が福祉実態調査で把握している何らかの生活課題をかかえる「気になる世帯」への巡回訪問を行い、サロンへの参加を働きかけるとともに普段の見守り等ネットワークを構築することとしている。



買い物ツアーの様子

また、地域住民が交流を図り、介護予防や生きがいつくりの場とするため、花火通り商店街（市中心部）で2か所のふれあいサロンをスタートさせた。市民交流プラザ内の「のびのびサロン」と、障がい福祉サービス事業所「ほっぺ」が場所を提供する「ほっぺサロン」で、平成29年度から大仙市社協が養成した「地域福祉活動サポーター」が運営スタッフを担っている。

街の中心部に会員制ではない自由に住民が集える居場所ができたことで、住民同士が交流し、つながりが深まり、いざという時に助け合うきっかけづくりとなった。

「のびのびサロン」は、参加者が多いため一人ひとりの要望等に応じた個別のプログラム作成が難しく、「ほっぺサロン」では、事業所のスペースを借りているため参加人数やレクリエーションの内容が限定されることが課題である。

新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人との交流が制限されている中で、感染予防対策を十分行いながら今後も定期的なサロン活動の継続に努め、コロナ禍でも「つながり」が絶えないよう工夫しながら取り組んでいくことが期待される。



脳トレゲーム中（のびのびサロン）



小学生と折り紙で交流
（ほっぺサロン）

◆八郎潟町社会福祉協議会 ～山間部・中心部・住宅地・駅前周辺地区の取組み～

□ 指定地区の概要

- ・世帯数：2, 451戸（令和2年5月現在）
- ・高齢化率：43.0％（令和2年5月現在）
- ・山間部の浦大町地区、中心部商店街の4区、住宅街の31～33区、駅前周辺の10区は、それぞれ生活環境が異なり、福祉課題も地域性が見られる。

□ 具体的な取組み

八郎潟町社会福祉協議会（以下「八郎潟町社協」）では、町内すべての地区で地域住民の居場所づくりが展開されることを目指し、生活支援体制整備事業の一環で地区を指定したモデルサロン「まめだが～」を実施している。山間部と中心部などでは生活環境が異なることから、各地域が抱える福祉課題も異なると考え、モデルサロンと地域福祉座談会を組み合わせで開催した。

これにより地域の人口減少や高齢化が着実に進んでいることを住民が実感し、地域で支え合うことの必要性を理解する機会になり、今後の支え合いの仕組みづくりを進めるための機運を高めるきっかけになった。



モデルサロン「まめだが～」①



モデルサロン「まめだが～」②

一方で、社協とは何か、どんなことをしているか、など漠然と理解していても詳しく理解していない方が一定数いることが分かった。そこで、八郎潟町の人口減少の現状を認識し、互いに支え合う地域づくりを進めていく必要性や、そのための社協の役割や事業等について理解を深めるため、事業紹介パンフレットを作成し、町内会長や民生委員等関係者に配布した。社協の基本理念や目標、組織体制、実施している事業等を掲載し、見やすく、わかりやすい内容にしている。

モデル指定2年目となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、サロン及び地域福祉座談会の開催が難しい状況となった。そこで、

令和元年度に開催実績のある地区関係者による連絡会議を開催し、コロナ禍でも安全に活動できる方法等について検討した。会議の中で明確な解決策までは議論できなかったが、各地域で持ち帰り、開催場所を含む今後の活動の進め方等について検討することとしている。

座談会において、買い物難民に関する実態調査の実施について要望があった。参加者アンケートからも、特に山間部は町の中心部と比較して買い物や通院で困っている割合が多いことが課題となっている。

八郎潟町社協では、すべての地域でモデルサロンと地域福祉座談会を開催して町全体の地域課題の把握に努め、解決に向けた具体の対応方策や住民主体で支え合う仕組みづくりについて検討していくこととしている。



地域福祉座談会の様子